

北多摩西ニュース



No.10
 国分寺市光町1-40-12
 Tel 042-576-1161(代)
 Fax 042-575-0529
 E-mail: kitanisi@crux.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://kitanisi.org/
 東京都教職員組合
 北多摩西支部情宣部
全教職員配布

清掃や、休み時間の対応など 外部に依頼で、解決?

～中教審答申から見える教員の「働き方改革」～

外部依頼で解決?

左の文章は、「1年単位の變形労働時間制」や短時間で仕事をした職員の評価などを打ち出した中教審の答申です。

学校の現状をこう捉えながら、中教審が「働き方改革」として具体

的にあげているのは、学校や教師の業務の外部依頼です。印刷などの補助をする「スクールサポートスタッフ」はその一例です。その他外部に依頼すべきものとして、清掃や休み時間の対応をあげています。(※裏面参照)。

一方で、現場が求め

これまで我々の社会は教師たちの熱意に頼りすぎてきたのではないだろうか。所定の勤務時間のはるか前に登校する子供のために、自分はさらに早朝に出勤する教師。平日はもちろん一般の社会人が休んでいる休日まで子供たちの心身の成長を願い部活動に従事する教師。子供の様子を一刻も早く共有するため、仕事をしている保護者の帰宅を待ってから面談をする教師。

こうした中で、教師たちは長時間勤務を強いられており、そして疲弊している。

〈2019.1 中教審答申〉

業務の補助で助かることはありますが、多忙化の根本的な解決にはなり得ません。そもそも学校現場をこんな

に忙しくしている要因の一つとして「学習指導要領」があります。2000年代になり「標準」から「最低基準」になったため、「授業時数」の確保のための「余剰時数」が学校に求められるようになりました。それまでは、

学期の始めや終わりに午後5時の授業がカットされ、準備や成績処理の時間が一定程度確保されていきました。

現在は、事務作業は時間外にならざるを得

2019年度北多摩西支部定期大会
 日時 5月12日(日) 午後1時～
 場所 北多摩西支部教育会館

ている持ち時数減や教員増は見送っていません。インフルエンザによる学級閉鎖のため、終業式直前まで6時間授業を計画している学校もあります。振替なしの土曜授業や夏休みの短縮も当たり前のようになってい

ます。加えて「評価・評定」が観点別になってから「評価材料」のために子どもも教師もおわわっています。

子どもたちに向き合う時間のために

都教組北多摩西支部は「余剰時数」の廃止もしくは削減を訴えています。子どもたちにも、しっかり向き合うためにも、「指導要領」の根本的な改訂が必要だと考えます。

学校の窓

▼ある日の給食の時間に、子どもたちが好きな味噌ラーメンが献立として出ました。配膳が終わると、「ぼくの麺は少ないので増やそう。」と前に出てきたA君。私が見る限り他の子と比べても決して少ない量ではありません。「おかわりをすればいいね。」と話しかけると、不満顔ながら、座席に戻り食べ始めました。▼やがて、おかわりの時が来ました。食缶の前には列ができています。A君は先頭です。「おかわりしたい人が多いから、考えてもらった方がいいよ。最後のCさんまで回るかな。」と途中に並んでいたB君の声がしました。わたしはというと、食事もそこそこに問題プリントの丸付け最中。▼さて、物静かです。Cさんはおかわりしてきませんが、Cさんはおかわりしてきよう。A君が「先生みんなおかわりできたよ。」とわたしに話しかけてきました。そして、「まだ一人分あるから、まだしてない人！」と呼びかけました。子どもの声に耳を澄まし、行動に目を向けると、どこにでも心温まる場面があります。▼働き方改革を、子どもと私たちが望む方向にしていくなか、みんなが学び、声をあげていこうではありませんか。

(K・S)